2024年8月9日

2025年3月期 第1四半期 決算説明資料

Microwave Chemical

Make Wave,
Make World.

世界が知らない世界をつくれ

アジェンダ

1. エグゼクティブ・サマリー
2. 第1四半期業績・経営指標ハイライト
3. 2025年3月期成長戦略及び第1四半期公表案件振り返り

エグゼクティブ・サマリー

第1四半期業績	• 売上高69百万円（前年同四半期対比(32.6)%） • 通期売上高計画（1,710百万円）に対する進捗率は4%であるが、収益が計上される共同開発の完了時期は今期も下半期に偏重する傾向にあり、通期計画に変更なし • 契約済ベースでの進捗率は51%（879百万円）
KPI	• 新規契約獲得数：今期計画29件に対して5件の契約を獲得（進捗率17%） • 契約総数：今期計画61件に対して、27件が契約済（進捗率44%）、うち5件が納品済
案件ハイライト	• グリーン領域の中で注力するケミカルリサイクル事業と鉱山プロセス事業において開発を進行 – 金属製錬/鉱山プロセスにおける標準ベンチ装置を完工（自主開発） – 上記標準ベンチ装置を用いたニッケル鉱石の焙焼及び還元に成功（大平洋金属） – ケミカルリサイクルの連続式実証機を完工（自主開発）

アジェンダ

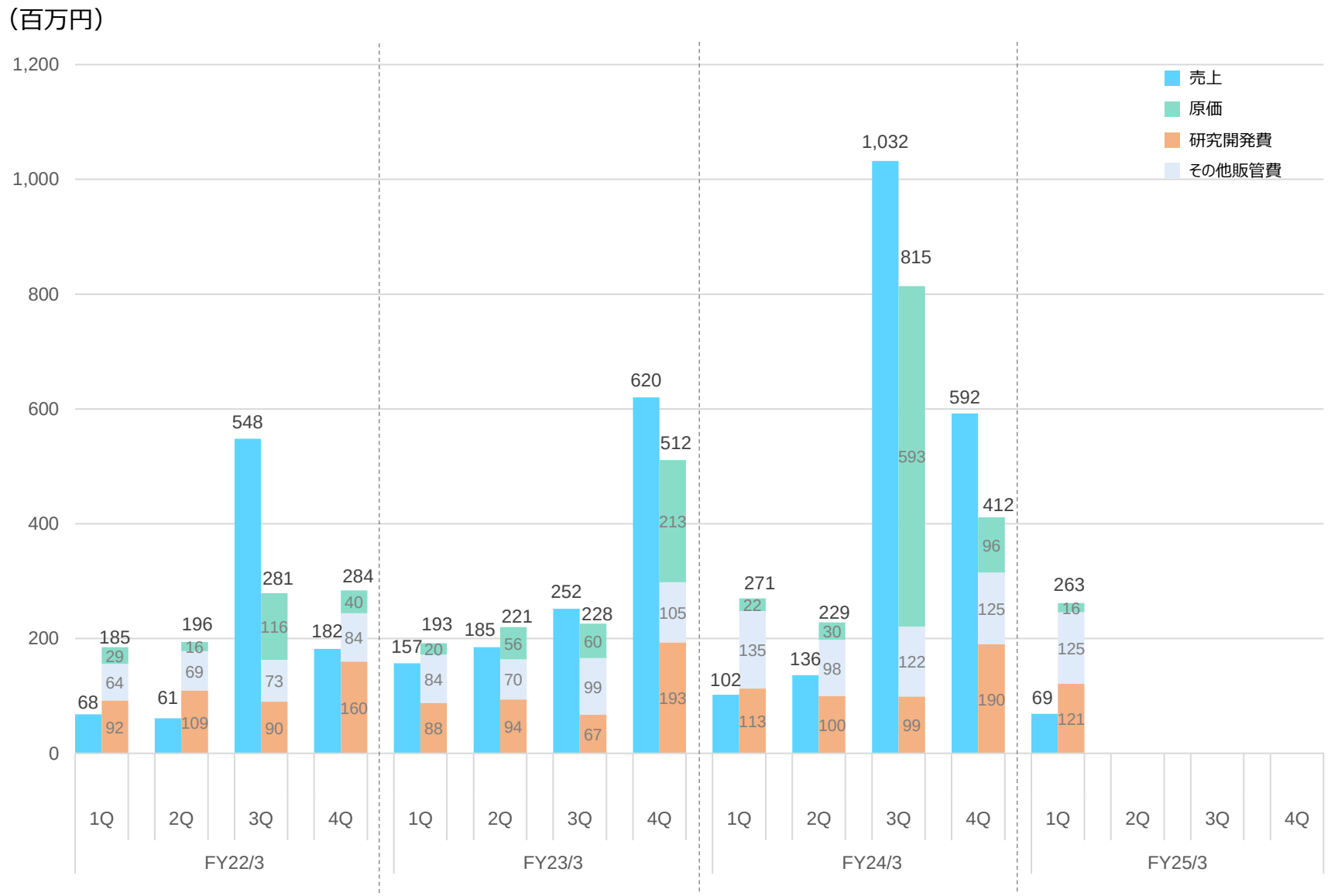
1. エグゼクティブ・サマリー
2. 第1四半期業績・経営指標ハイライト
3. 2025年3月期成長戦略及び第1四半期公表案件振り返り

経営成績　25年3月期　第1四半期

- 25/3期通期計画は販管費をコントロールすることで営業黒字を計画
- Q1売上高は通期計画対比4%であるが、契約済ベースでは879百万円（51%）の進捗（後述）

（百万円）	FY24/3 Q1	FY25/3 Q1	前年同期比 差額	前年同期比 %	FY25/3 通期計画	計画対比 %
売上高	**102**	**69**	**(33)**	**(32.6)%**	**1,710**	**4.0%**
Phase 1	69	9	(59)	(85.8)%	490	2.0%
Phase 2	33	59	26	78.8%	1,201	4.9%
Phase 3	-	-	-	-	15	0.0%
Phase 4	-	0	0	-	-	-
その他	-	-	-	-	3	0.0%
売上総利益	80	52	(27)	(34.8)%	1,021	5.1%
対売上高比	*78.0%*	*75.5%*	*(2.5)pt*	-	*59.7%*	-
営業損益	(169)	(194)	(25)	-	48	-
対売上高比	-	-	-	-	*2.8%*	-
経常損益	(170)	(196)	(25)	-	40	-
税引前純損益	(181)	(196)	(14)	-	40	-
税引後純損益	(184)	(196)	(12)	-	37	-

四半期経営成績推移（22/3期Q1-25/3期Q1）

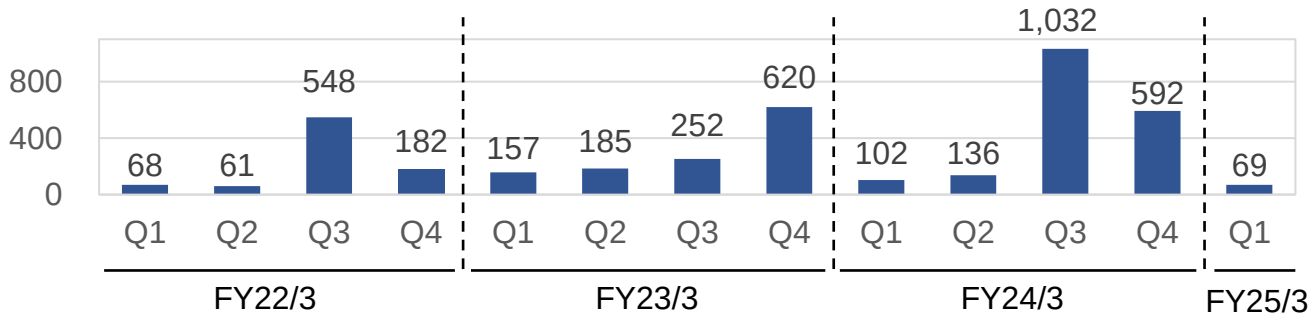


業績の季節的変動・収益認識について

＜業績の季節的変動について＞

当社の主要顧客である化学企業においては、新年度直前の３月までに研究開発予算の獲得が行われるため、当社との共同開発は第１四半期または第２四半期に開始することが多くなります。その結果、当社の収益が計上される共同開発の完了時期が下半期に偏重する傾向にあります。また、大型案件の完了時期による影響があります。これに対して販売費及び一般管理費は、その大部分が固定費であることから、利益の割合も下期に偏重する傾向にあり、投資家の判断に影響を及ぼす可能性があります。

各四半期会計期間の売上高（百万円）



＜収益の計上基準＞

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。なお、約束された対価は履行義務の充足時点から概ね１ヶ月以内で支払いを受けており、対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

① 共同開発契約

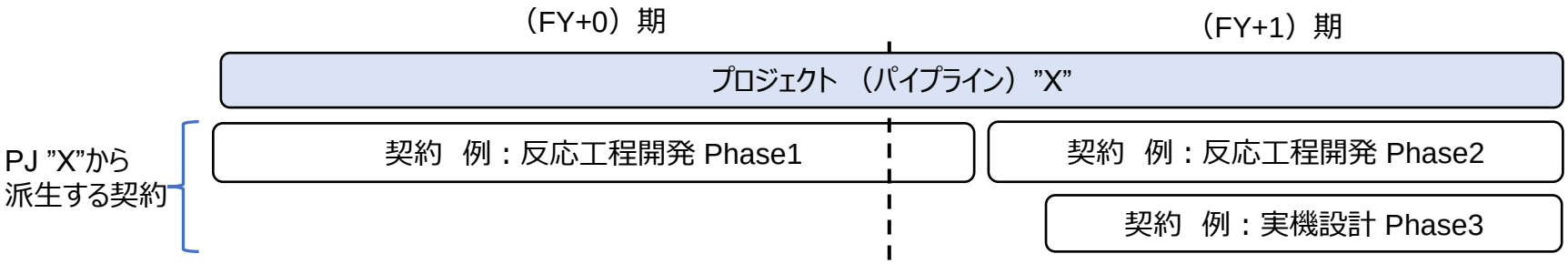
共同開発契約においては、開発テーマに関する報告書・サンプル等を提出し対価を得ております。このような契約においては、顧客による報告書・サンプル等の検収が完了した時点で収益を認識しております。

② ライセンス契約

ライセンス契約においては、顧客に対して当社の知的財産の実施許諾を行い、その対価として契約一時金、ランニングロイヤリティを得ております。契約一時金は、知的財産の実施許諾する時点で収益を認識しております。ランニングロイヤリティは、実施許諾先の企業の売上高に基づいて生じるものであり、実施許諾先の企業において製品が販売された時点で収益を認識しております。

経営指標について

1. 当社の事業を捉える為の重要な経営指標は、**①新規契約獲得数**、**②契約総数**、**③Phase別売上高**である。
2. ①新規契約獲得数と②契約総数における「契約」はプロジェクトを遂行するため顧客と個別に締結し、ソリューション提供のフェーズや形態に応じて、一つのプロジェクトより複数締結することもある（以下参照）。
3. ③Phase別売上高は、契約のフェーズ進捗について、全体的な分布とステージアップの進捗を把握するための情報であり、当社の成長を捉えるための指標となる。
4. 契約は当社収益を主に構成するものであり、当期中に検収を完了し収益が計上される「契約」を経営情報として開示している。



2025年3月期第1四半期 経営指標ハイライト

1 新規契約獲得数

- 今期計画29件に対して、5件の契約を獲得（進捗率17%）

2 契約総数

- 今期計画61件に対して、27件が契約済（進捗率44%）、うち5件が納品済

3 Phase別売上高（契約済ベース）

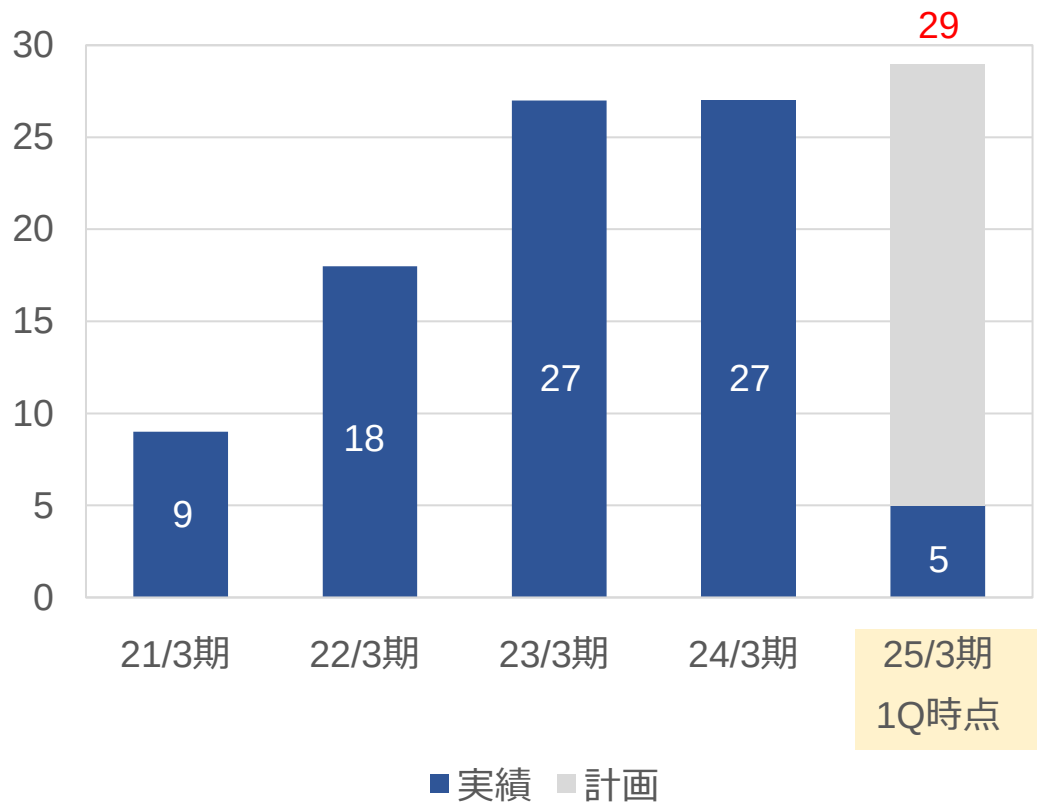
- 今期売上計画1,710百万円に対して、契約済ベースでは879百万円（51%）の進捗

経営指標①　新規契約獲得数

- 通期計画に対する進捗率は17%

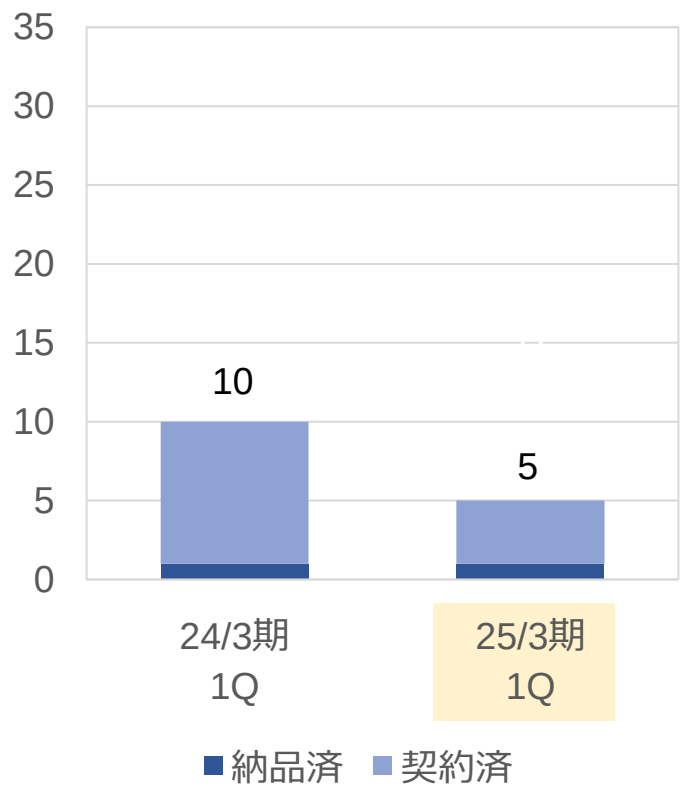
新規契約獲得数：推移

（単位：件）



前年同期比

（単位：件）

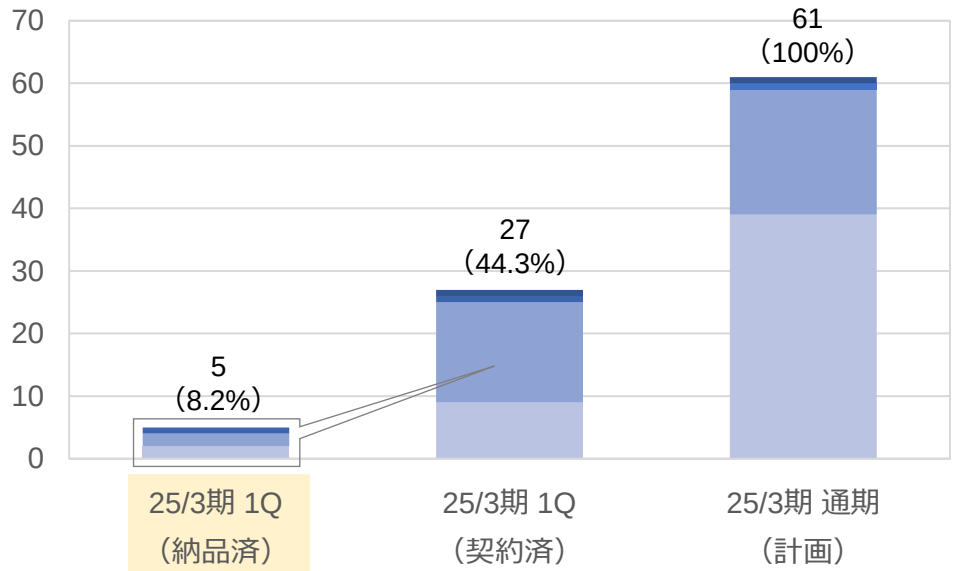


経営指標②　契約総数

- 契約済ベースの通期計画に対する進捗率は44%

通期計画に対する進捗

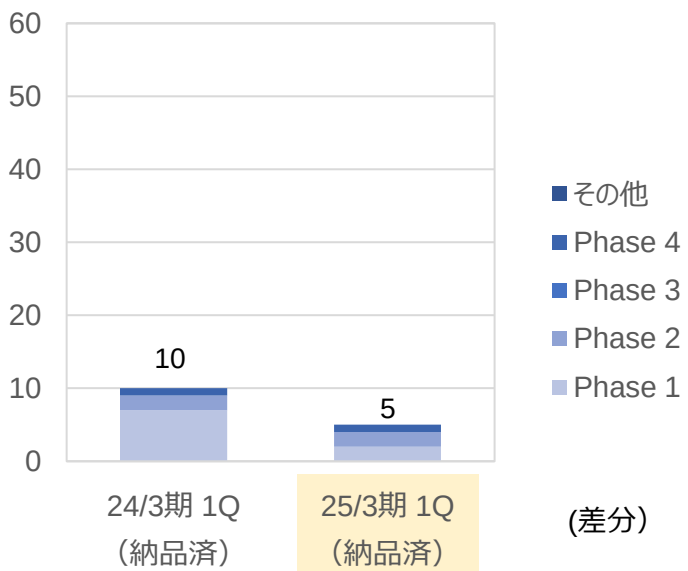
（累計、単位：件）



Phase 1	2	9	39
Phase 2	2	16	20
Phase 3	0	0	1
Phase 4	1	1	0
その他	0	1	1
合計	**5**	**27**	**61**

前年同期比

（累計、単位：件）



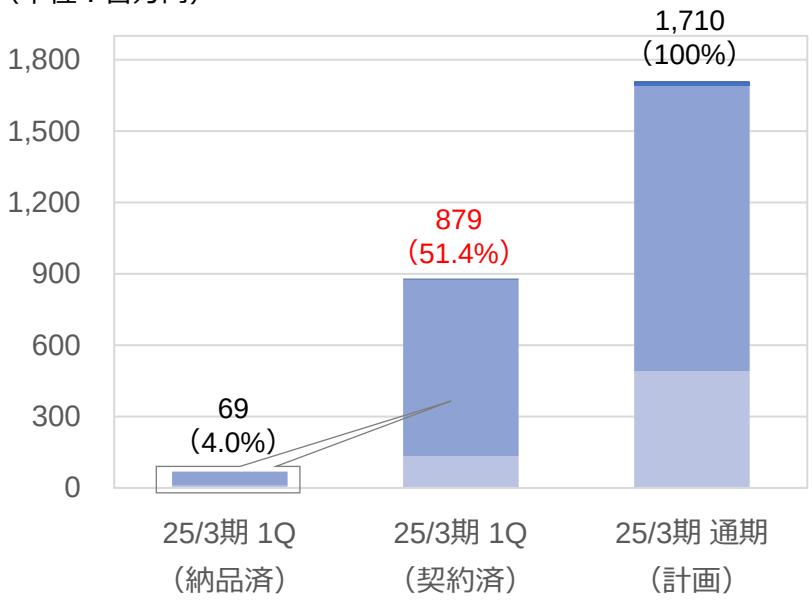
		(差分)
7	2	(5)
2	2	0
0	0	0
1	1	0
0	0	0
10	**5**	**(5)**

経営指標③　Phase別売上高

- 契約済ベースの計画に対する進捗は51%

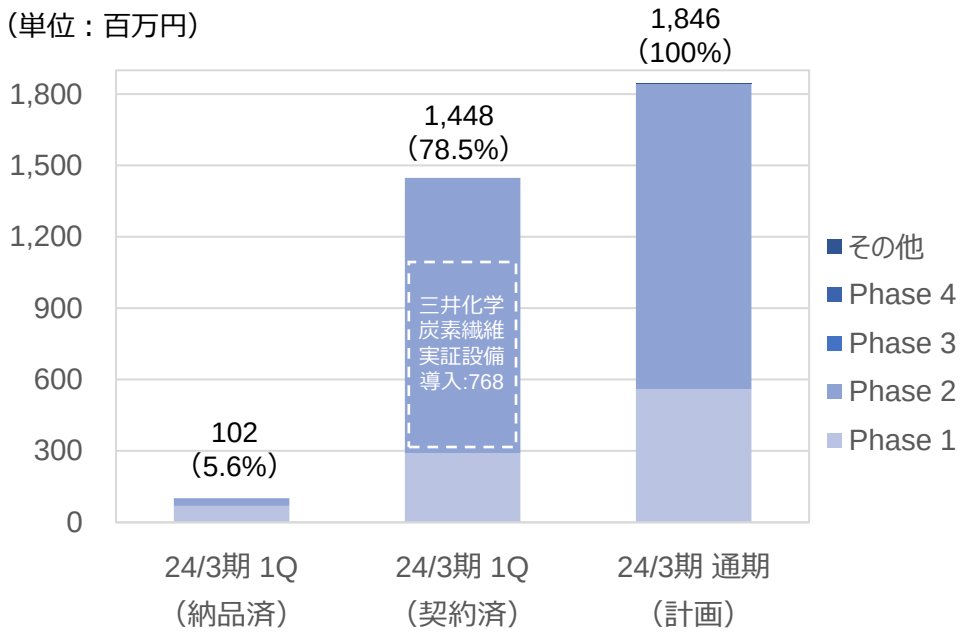
25/3期　1Q

（単位：百万円）



（参考）24/3期　1Q

（単位：百万円）



Phase 1	9	133	490
Phase 2	59	742	1,201
Phase 3	–	–	15
Phase 4	0	0	–
その他	–	3	3
合計	**69**	**879**	**1,710**

69	290	559
33	1,158	1,284
–	–	–
–	–	–
–	–	3
102	**1,448**	**1,846**

アジェンダ

1. エグゼクティブ・サマリー
2. 第1四半期業績・経営指標ハイライト
3. 2025年3月期成長戦略及び第1四半期公表案件振り返り

成長戦略：2025年3月期　方針と施策

FY24/3通期決算説明資料P.21再掲

- 24/3期と同様に、注力する既存事業領域への先行投資の継続に加え、更なる成長に向けた新規標準化事業の仮説検証を進行

ビジネスモデル × 事業領域

契約数 × 単価 × ステージアップ × 横展開

1 質の高い新規契約の獲得

単に契約数を追いかけるのではなく、**社会実装につながる質の高い大型案件にフォーカス。**

2 技術プラットフォーム強化によるステージアップ

技術優位性と事業ニーズがある分野にフォーカスした技術プラットフォームの強化による**ステージアップ確度の向上**。

3 標準化による横展開・事業のスケール

ケミカルリサイクル、鉱山プロセス事業の推進と、新規標準化事業の立ち上げ。

4 成長分野への注力

カーボンニュートラル分野へ先行投資することで、成長を加速。

- グリーン
- エレクトロニクス
- ヘルスケア

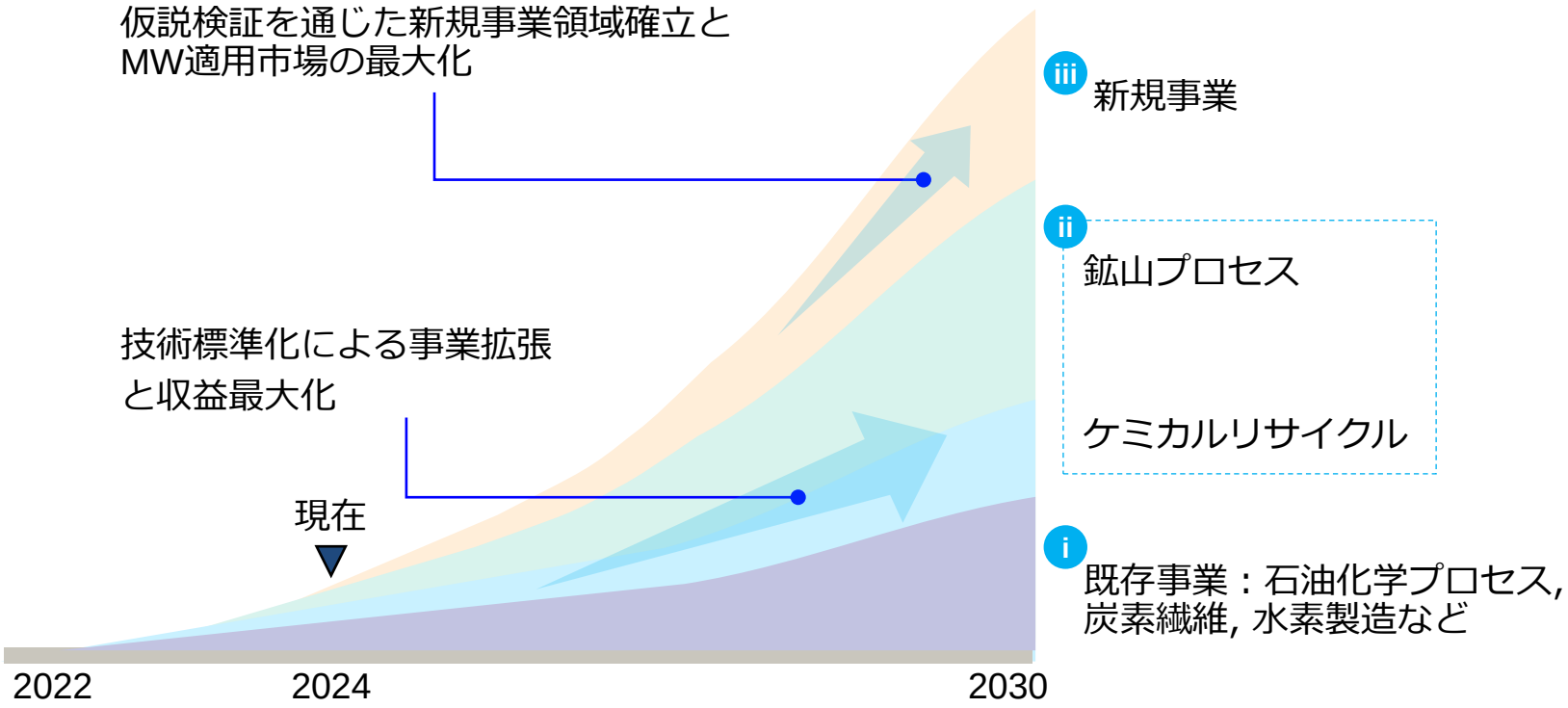
インフラの整備

ステージアップ契約数の増加に対応するため、(1)人員、(2)開発インフラ（ラボ+実証拠点）を段階的に補強

4 グリーン領域における注力事業と成長イメージ

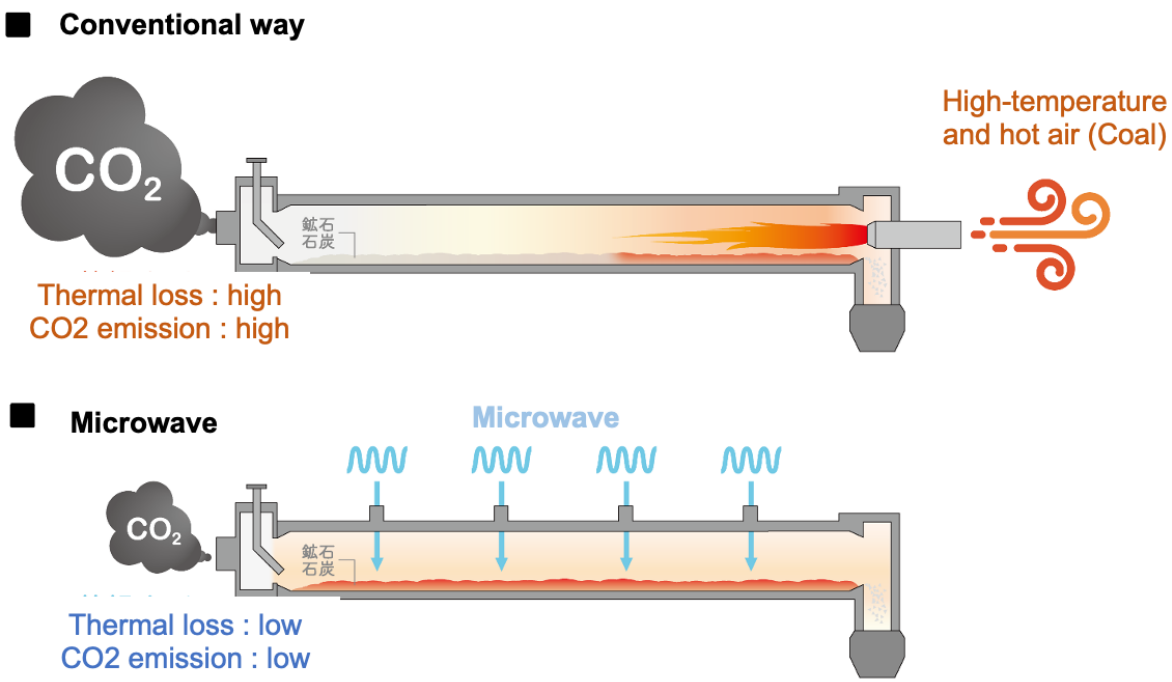
FY24/3通期決算説明資料P.22再掲

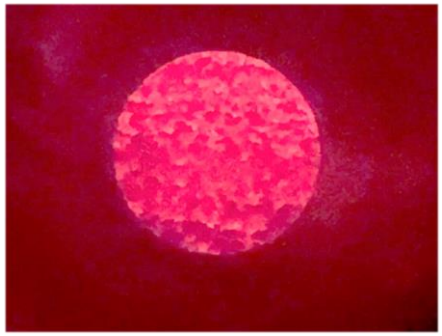
- i 従来から取り組んできた、石油化学プロセス、炭素繊維、水素製造などの案件を提携先と着実にPhase 3（実機導入）に持って行き収益を実現する
- ii またこれまで当社は様々な事業領域において仮説検証を行ってきたが、グリーン領域の中で、現状ではケミカルリサイクル事業と鉱山プロセス事業の技術標準化・実績の蓄積が進んでいる。これらの事業において、横展開を進め、事業の拡張と収益の最大化を目指す
- iii 更に上記事業に加え、複数の新規事業領域確立に向けた仮説検証を同時並行で進める



ニッケル鉱石の焼焼及び還元に成功（大平洋金属）

- ニッケル鉱石製錬におけるCO_2排出の主要因である焼焼を、現行の石炭燃焼からマイクロ波に置き換えることを目指して大平洋金属と共同開発しているプロジェクト
- 2024年5月に標準ベンチ装置を用いた焼焼及び還元に成功したことを発表
  - 約10kgのニッケル鉱石を900℃までマイクロ波で加熱し、鉱石内部の脱結晶水の進行（焼焼）を確認
  - また還元剤としての石炭を加えてニッケル鉱石を焼焼した試験では、鉱石に含まれるニッケル及び鉄の還元が進んだ（既存のロータリーキルンでの還元率とほぼ同等）
- 2030年の実機導入に向けたスケールアップ検証を継続





焼焼中のニッケル鉱石（900℃）

マイクロ波を用いたケミカルリサイクルの連続式実証機を完工（自主開発）

- 2024年5月、「小型分散型」「連続式」の技術形態を検証することを目的として、連続運転可能なマイクロ波ケミカルリサイクルの実証機を開発
  - 残渣が発生する廃棄プラスチックを連続して分解することで高効率性を実現
  - 廃棄プラスチックの組成と目的回収物に応じたマイクロ波プロセスの運転が可能
  - 廃棄プラスチックの処理量に対して装置を小型化（省スペース）
  - CO_2排出量の削減、及び熱効率改善による省エネルギー化
- 本実証機を用いて複数の廃棄プラスチックを対象とした分解試験を実施中

マイクロ波を用いたケミカルリサイクルの連続式実証機

End of Document

Microwave **Chemical**

Make Wave,
Make World.

世界が知らない世界をつくれ